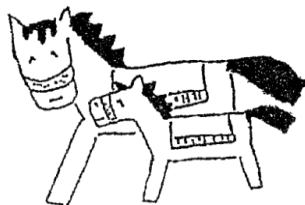


♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと



24年 9月 NO. 214

(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～		9月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
9月 7日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「もう秋ですね」をテーマに手あそびや絵本紙芝居などします。どなたでもどうぞ。		
9月 8日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。		
9月 8日	土	スピーチ講座 14:00～16:00	実践編として自己紹介をしたり、その 仕方や要点、注意点をお聞きします。		
9月 12日	水	香川みすゞさんの会 13:00～17:00	13時までに当園へ集合し、東かがわ市 歴史民族資料館へ「笠置シヅコ展」を 見に行きます。(9/8までに予約要)		
9月 15日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験において下さい。		
9月 28日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	小児科園医師にゆっくり 相談できます。(予約要)		

<p>・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p>育児相談(月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活、入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
---	--

香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園 地域子育て支援センター

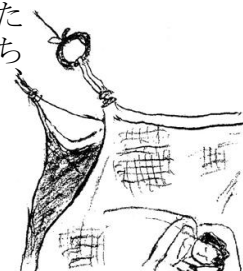


金子みすゞ童話全集②  
「美しい町・下」より

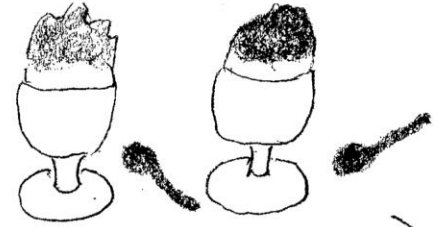
波にゆらゆら、青い網、  
みんなはあわれなお魚だ。  
雲の砂地にねていよう。  
夜の夜なかに眼がさめりや、  
ひまなお星が曳きにくる。  
なにも知らずにねてるまに、

かやのなかの私たち  
網にかかったおさかなだ。

蚊  
帳



## 夫婦の絆って？



### ○妻・夫のいやな癖

「夫の癖で直してほしいことはありますか」の問いに39才の主婦は、「用事を頼むと、しぶってヘリクツを言う癖があるんです。例えば、切れた電灯を取り換えてって言う『あそこの照明はそんなに使っていたかな』とか。やっぱり嫌な気持ちになりますよ。やりたくないなら素直にそう言ってくれた方がいい。」

また、会社員の男性（53才）に妻にいやがられる自分の癖について語ってもらった。そのやりとりを再現すると、

妻「スーパーの〇〇でお肉が安かったのよね」

夫「フンフン・・・」（実は聞いていない）

翌日の食卓。

夫「いやあ、肉がうまいな。これどうしたの」

妻「何言ってるのよ、昨日、〇〇で買ったって言ったじゃない。やっぱり聞いてなかったのね！」

そう、「相手の話を聞き流す」という癖。男性は「よくないとは思いますが、どうでもいいことを聞くのは疲れるんだよね・・・」と。

他にも都内の4カ所で計40人を超える夫と妻に、「パートナーの直してほしい癖」を尋ねた。

その中でも目立ったのが、この「聞き流し」への憤りの声だった。

『夫婦』という幻想』などの著書がある精神科医の斉藤学さん(70)によると、妻が最も嫌がる癖の一つが、これだ。『『そうか、そうか』と相づちを打ちながら、実は何も聞いていない。妻にとっては『自分の方をきちんと向いているのか』という切実な問題。バレたら『ばかにしているんだ』『私を一人の人間として扱っていない』とまで言われることもあります。そして、こう打ち明けた。「私も、妻に疑われて『今、言ったことをリピートして』と迫られることもあるんです…」

一方、2万組を超える夫婦の相談を受けてきた夫婦問題コンサルタントの池内ひろ美さん(50)は「妻は夫から責められたと感じることを嫌と感じがち」と言う。例えば、ソファに座る前に手で座面をなでる癖のある夫。妻は自分が掃除をサボっていると言われていたように感じたらしい。

取材で話を聞いた49歳の女性は、夫の「それは前に言っていただろう」という口癖に腹が立つと話した。せっかく力を入れて夕食を支度したのに、連絡もなしに夫の帰りが遅いことがあった。夫の弁明は「前に飲み会があると聞いたはずだよ」。「言っていないのに、言った気になっている。嫌になります」

まだある。妻が夫に直してほしい癖で目立ったのは「大ざっぱ、やりっ放し」のたぐいだ。

「丸めて脱いだ靴下をそのまま洗濯機に入れるのは改めてほしいですね。ボールの形に洗いあがった靴下を見ると、『だらしがないなあ』と感ずます」と。

同様の声は多かった。「歩きながら順番に脱いでいるのが分かる。上着、ズボン、靴下ときて、最後には浴室の前にパンツが落ちてる…」(27歳)「トイレや階段の電灯をつけて、消し忘れる」(48歳)。

食卓での夫の行動を見つめる視線も厳しい。「くちゃくちゃ音を立てて食べる」(52歳)「新聞を見ながら朝食を取るの、パンくずがぼろぼろこぼれる。片付けるのは私なのに」(54歳)

どうも夫たちは家では「リラックスし放題」のようだ。斉藤さんは「男性は結婚して安心して、子供ができて別れようがないと安心すると、急速に“子ども返り”が進む。スエットの室内着なんか着て、ごろごろして缶ビールばかり飲んで、鼻毛をむしる。そんな姿を妻たちは冷たい目で見ていますよ」。

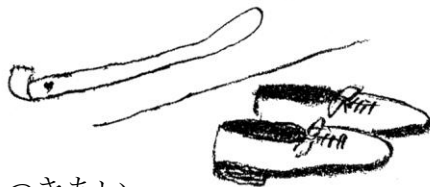
配偶者への不満の上位五つは、夫に対しては①整理整頓ができない②気が利かない③イビキがひどい④たばこを吸う⑤家事の協力をしない。妻へは①整理整頓ができない②朝寝坊③料理の手抜き④体形が変わってきたところ⑤夜更かし—の順だった。

斉藤さんは「夫婦といっても数ある人間関係の一つに過ぎない。常に点検し、相手が嫌だと思ふ癖は直すべきです。また、癖を直してほしいと言ったからといって、夫婦関係が壊れることはないはず。『言ってくれるのは君だけ』と、かえって関係がよくなりますよ」。

一方池内さんは「恋人同士なら、しっかり両目で相手の悪い癖を見抜いてほしいですが、結婚後は片目をつむって受け入れてあげましょうよ」と話す。

ヘンな癖は誰にでもある。ただ、それを直せるか、あるいは苦笑いしつつ受け入れられるか。やっぱり試されているのは「愛」なのかも。

毎日新聞(東京)・夕刊 2012年1月より



### ○夫の実家とのつきあい

〈夫と私では、実家との距離感があまりに違って…〉というのは、大阪市内の女性(31)です。同い年の夫と結婚したのは1年半前。

ところが、いざ結婚すると恋人時代に気付かなかったものが見えてきました。女性は普段、実家とは用事のある時に連絡を取り合う程度。逆に夫の肉親や兄弟はことあるごとに集まり、食事やカラオケを楽しむ一家でした。

結婚後は頻繁に夫の実家から誘われ、出かけます。祝い事のあった昨年11月はほぼ毎週でした。それほど続けば疲れるでしょうね。〈夫婦になったのだから、互いの大事なものを尊重していけたら〉。譲歩しようと思った女性ですが、気苦労は続きます。

本音で対話しようと思っけていても、つい意固地になったり、遠慮や我慢をしたりしてしまうことがあります。

## ○ぶつかって生まれた絆

女性が4歳上の夫と結婚したのは約20年前です。挙式前に知り合いの若い夫婦たちから暮らしぶりを聞き、〈結婚＝甘い世界と思い込み、旦那は当然、優しくしてくれる〉と期待していましたが、現実はずいぶん違っていたそうです。

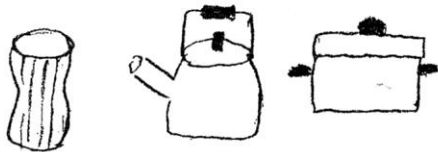
〈旦那に家事の手伝いを頼むと「えー、なんで」と嫌がるのです。その当時、まだ私がパートに出ていなかったからなのか、「家のことは全て妻がやるものだ」と思っていたのです〉  
休日、たまに夫婦で外出した時もそうでした。夕方を過ぎると夫は「晩ご飯は家で食べる」とさっさと帰ります。女性は「今から私が支度をするの？」ともやもやした気分で台所に立ち、のんびりとテレビを見て待つ夫をうらめしく思ったといいます。不満が口調や態度に出てしまうこともあったので、夫と頻りに衝突しました。

転機が訪れたのは結婚から半年後、第1子を身ごもり、ひどいつわりに苦しんでいた頃です。〈ふと、夫を変えることばかり考えても仕方がない。ならば、自分を変える方が簡単と思ったのです〉

「手伝うのは当然」とばかり夫に要求していた自分の態度を改め、言い方を工夫してみたそうです。「動くのがつらいから、洗濯物を干してくえるとすごく助かるんやけど」。すると、夫はすんなり手伝ってくれたのです。

女性の歩み寄る気持ちが通じたので、そうやって接するうち、「最近、言い方がきつくなくなった」と、進んで手を貸してくれるようになりました。結婚7、8年後には夫婦でテニスも始めました。ともに初心者だったため、どちらが優位に立つこともなく、共通の楽しみができて互いの距離がぐっと縮まったといいます。

〈関係を築いていく過程は大変だったけど、今は結婚って悪くないもんだなと思っています〉。女性はそうつぶやき、「意地を張らず、修復のきっかけになりそうだなと思ったらためらわずに実践してみる。きっと何かが変わりますよ」と、新婚夫婦にエールを送っておられます。



読売新聞（大阪）・朝刊 2012年1月より

## 記者から（読売新聞・大阪）

会社員の夫と結婚して15年が過ぎました。偶然ですが、実は私も結婚前、当時の上司から「結婚は戦いやで」と言われたのです。その言葉通り、当初は仕事や家事をめぐって夫と何度も口論し、甘い新婚生活とはほど遠い日々でした。

それでも、けんかのたびに友人たちが取なしてくれ、「雨降ってー」を実感しました。今は「あのとき、本音をぶつけ合ってたよかった」と思っています。

